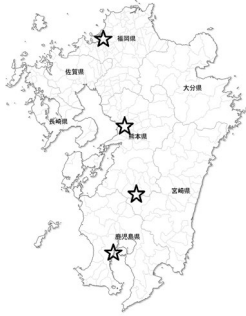


九州正教会だより 第60号



(福岡・熊本・人吉・鹿児島)

2024年9月1日発行

発行人：司祭グリゴリイ水野 宏

〒811-2232 福岡県糟屋郡志免町別府西 2-7-1

TEL / FAX 092-410-0540

mail ocj.kyushu@gmail.com

ウェブサイト <https://www.ocj-kyushu.com/>



十字架が勝利のしるし

司祭グリゴリイ 水野 宏

つい先日まで開催されていたパリ五輪では、日本選手団が海外の五輪で過去最多の20個の金メダルを獲得して話題になりました。金メダルは誰もが知っているとおり、各競技の優勝者に授けられる「勝利のしるし」です。また8月の全国高校野球選手権大会、いわゆる「夏の甲子園」の優勝校には、主催者から「深紅の優勝旗」が授与されます。つまり夏の甲子園では、この深紅の優勝旗が「勝利のしるし」だというわけです。

では私たちキリスト者にとって勝利のしるしとは何でしょうか。それは間違いなく、「主の十字架」です。何に対する勝利か、それは「人間の死」に対してです。

9月27日の十字架挙栄祭は、4世紀に聖太后エレナ（ローマ皇帝で初めてキリスト教を公認したコンスタンティヌス帝の母）によって、主が掛けられた十字架が発見されたことを記憶する祭です。歴史的には、この十字架は後に異教徒のペルシャ人に略奪されましたが、7世紀にヘラクリウス帝が奪還し、その戦勝を祝ってエルサレムで高く掲げられました。高く掲げる祭という意味の「挙栄祭」という呼称は、この故事に由来します。

もちろん、既に述べたように私たちキリスト者の勝利は地上の戦争に勝つことではありません。キリストが私たちの罪のために十字架上で死に、その後に復活を示されたことで、人間なら誰もが避けられない「死」が終わりではなく、永遠の生命における単なる通過点に変質しました。つまり、キリストの十字架上の死と復活によって人類の救い、すなわち人間の死に対する勝利が確定したのです。これがキリスト教という宗教の考えの根本です。

十字架挙栄祭では聖堂の中央に十字架を置き、各自伏拝します。それはキリストの十字架上の死と復活によって、私たちの救いが実現していることを思い起こし、「勝利のしるし」である十字架を讃えているのです。このことをしっかりと理解して祈禱に与りましょう。